

## 平成 30 年度 淡路くにうみ夢フォーラム 概要

1. 日 時 平成 31 年 2 月 23 日（土）13:00～16:50
2. 場 所 洲本総合庁舎 3階会議室
3. 出席者 ビジョン委員 24 名・一般 14 名、本部・幹事名 9 名、来賓 4 名、  
専門委員 2 名、本庁・事務局 10 名、田村講師氏 計 64 名

### 4. 内 容

- (1) 開会あいさつ（小田委員長、吉村県民局長）
- (2) 来賓あいさつ（永田県議会議員）
- (3) 講演：「明治の淡路を拓いた先人たち」  
講師：元淡路文化資料館長 田村 昭治 氏

#### ①明治の人物選出について

- ・レジュメの冒頭に 57 人の名前を並べている。明治時代に活躍した人はこれらの人々だけではないが、私が調べた中で、どこでどういう活動をしたかが明らかになっている百名程度の中でお話ししやすい 57 人を取り上げている。
- ・島を出た人、島に残った人という分け方をしている。淡路で育ち、島の内外で活躍し、淡路人ここにありと名を輝かせた人物を挙げている。アンダーラインがある人物は、顕彰碑や歌碑・句碑等を残している。

#### ②明治維新をどのように迎えたか

- ・廃藩置県が終わった頃の明治 4 年 8 月に散髪脱刀令が出された。それまで武士は鬘を結び庶民は斬髪などだった。勘違いして強制的に散髪させられると思い騒動となった。
- ・明治 4 年頃から庶民も電報を使えるようになった。その頃のエピソードとして、攘夷派の人たちはいやしくも神の国に針金を張るなどもってのほかだということで、電線の下を扇子をかざして通った。また、勘違いして電線に手紙を括り付けた人もいた。
- ・明治 5 年 11 月に太陰暦から太陽暦に変わった。明治 5 年の 11 月 30 日が終わり、12 月 1 日から太陽暦の明治 6 年 1 月 1 日となり元の 12 月が無くなった。
- ・明治の冒頭、淡路島には 3 つの困難が横たわっていた。1 つ目は、明治 3 年 5 月 11 日に洲本で起こった庚午事変。2 つ目は、農業の不振、新しい産業が無かったことで経済的な困難を抱えていたこと。もう 1 つは、周りが海で地理的に不便であったため、島外の情報が淡路島に入って来なかったことである。
- ・廃藩置県によって侍たちが持っていた身分が無くなり、扶持が 10 分の 1 に減らされた。洲本の場合、蜂須賀氏の元で武士階級が蜂須賀氏直属の家臣と家老稲田氏の家臣の 2 つあり、位が違っていた。明治維新で士族平民という身分に分けられ、稲田氏は士族より一つ下の卒族にされた。それに対して稲田氏の家臣が士族として扱って欲し

いと藩に訴えたが取り上げてもらえず、明治政府に陳情した。その後、稲田氏側に有利な裁定が出そうになり、それに怒った蜂須賀氏側が100人の侍と800人の農兵が大砲、銃を持って洲本のまちを攻めた。それに対して稲田氏側は、朝廷に恭順の意を表して無抵抗で通した結果、死者、消失家屋を多数出し、一方的に蜂須賀氏側の勝利に終わった。これを庚午事変と呼んでいる。この処分は、蜂須賀氏側に対しては斬首、切腹、流島の処分が下された。稲田氏側は北海道開拓を命じられ、結果的に両成敗となった。

明治3年6月に津名郡志筑・室津以北の五十三カ村浦が兵庫県に移管された。これは、蜂須賀氏側の農兵800人が志筑以北の者であったからだ。

- ・明治4年11月には、徳島県を名東県と改め、淡路全域は名東県に属することになった。この時の兵庫県は、神戸の港周辺の小さな県であった。
- ・明治維新の改革は徐々に進み、明治5年に学生発布。明治6年には地租改正。物納から金納になり、明治政府の基盤を作る税制改革を行った。
- ・まだ明治の改革が始まった時代に、明治7年に、土居光華が『近世女大学』という本を出版した。女性の権利が蔑まれていたが、女子にも一人の人間としての権利があるということを主張した。福沢諭吉も女性の解放について書いた『女大学評論』を出版したが、土居光華が『近世女大学』を出版した数年後であった。

### ③「年表・明治淡路の政・経・文・教」から先人の活躍を知る

- ・明治7年、自由民権運動が土佐の立志社、阿波の自助社の設立から起こった。明治8年には自由民権運動の流れが阿波の自助社を通して自助社洲本分社が設立され、新しい政治の動きが起こってきた。
- ・明治8年、洲本師範学校が開設された。数年後には神戸の師範学校に吸収されたが、教育に対する関心が高かった。
- ・明治9年には、活版印刷が始まったばかりの時代に、安倍喜平が洲本に活版所を開いた。安倍喜平は明治10年に淡路新聞を発行した人物。安倍喜平は淡路からあまり出たことがなかったが、弟子を東京に派遣して印刷技術を習得させた。
- ・安倍喜平は、明治12年に淡路汽船会社の設立に関わった。その他にも、淡路で初めて東京から有名な人物を呼ぶなどして講演会を開いた。淡路に婦人会並びに商工会をつくって会長になった。淡路島の文明開化はこの人に以って始まったのではないかと評価されている。
- ・明治11年、英国人イートンが淡路を旅し、三原地頭方村の沼田存庵を訪ねる。明治時代に初めて淡路島に来た異国人で、明治14年に『淡路島遊記』を出版した。
- ・明治13年、淡路汽船が定期便を運航したことによって開かれた島になった。
- ・明治13年、蔭山守彦らが佐野東山牧場を開設。蜂須賀氏時代には牧畜が禁止されていた。明治14年には、佐野西山牧場が開設されて淡路島の牧畜業が非常に盛んになっていった。
- ・明治13年、津名郡都志村の高田敬一らが政治学習結社「講法会」を結成、明治14年、

河上村、塔下村などの青年による学習政治結社「自治会」が結成された。このような学習組織が中心となり、その後の自由民権運動の支え手となって全国的な広がりを見せることとなった。

- ・明治 13 年に、鹿島秀磨、三木善八らの青年たちが淡路から成長しつつあった神戸市に乗り込んで「淡路共立社」を設立した。この 2 人は、後に『神戸新報』、『大阪新報』、『郵便報知新聞』の発行に携わった。
- ・明治 14 年、自由民権家の植木枝盛が青木茂七郎らの招きで来島し島内で講演した。
- ・明治 14 年、津名郡長の鈴木三郎が洲本・塩田間の海浜道路 4,340 メートルを整備した。
- ・明治 17 年、山口恒雄らが農商務卿西郷従道に「水利土功費拝借の義」を請願したが、上手くいかなかった。
- ・明治 19 年、第一回津名郡勸業会を志筑で開いた。鈴木三郎津名郡長は、津名郡では人民が困窮しており、新しい産業を興すこと、農業を活発にすることが我々の使命だと叱咤激励した。
- ・明治 20 年、坂東国八が乳牛を飼育し、洲本のまちなかで牛乳を販売する仕事を始めた。坂東牛乳の名を島内のみならず、近畿圏に名を轟かせた。
- ・明治 21 年、佐伯右文が私立河上高等小学校を設立した。当時、高等小学校は洲本と市村にしか無かった。
- ・明治 29 年に操業を開始した淡路紡績が淡路島の産業革命の目玉となった。
- ・明治 34 年、西川光二郎が安部磯雄らと日本最初の社会主義政党社会民主党を結成した。この政党は即刻禁止されたが、西川光二郎を発起人として名を連ねるほどの社会運動家であった。
- ・明治 37 年、日露戦争が始まった時に桑島省三海軍大尉が日本海海戦で勲功を賞された。
- ・明治 30 年代後半から、淡路島に鉄道を敷設しようという動きが起こったが、準備しては立ち消えるということを 2、3 回繰り返した。大正時代に入ってようやく淡路鉄道が開通した。
- ・明治 41 年、この年に全国流行のペストが由良町に蔓延し、死者 77 名を出した。由良町の財政が破綻する中、由良に住んでいた大阪財界の政岡嘉三郎が町長になり、私財を投じて町政を救った。

#### (4) グループ発表

##### 【Aグループ】

- ・人物・・・高田屋嘉兵衛、賀集珉平、岩田康郎、井植歳男、上沼恵美子、阿久悠、廣田久美、照強。
- ・淡路島の将来をテーマにすると、過去に学ぶということ、ここに挙げた人物と配布資料に記載された人物がどの地域から出たかを見ていくと、なるほどと思うことがある。人物から地域の歴史を辿っていくと、岩屋に船を渡したこと、珉平焼き、

ダントータイトル、瓦産業の発展等につながってきたことが分かる。これまで淡路島を支えてきたタイルや瓦産業が苦境に立たされている。ホテル、市役所やインターチェンジでは地元のタイルや瓦を使い地元の産業に貢献していただきたい。

- ・淡路の人物の経験や功績をどうしたら活性化につながられるかを話し合った。なぜ、高田屋嘉兵衛かという、あの時代に一平民と庄屋の娘が結婚することはあり得ない話だ。嘉兵衛が船を持ってからは功績が認められているが、原点のところは淡路島で育った心だと思う。地域の人々と地域の環境がセットだと思う。これからの淡路島の人材を育成するには、過去に遡ってみると人々の交わりと心だと思うのでこれから役立てたい。

### 【Bグループ】

- ・人物・・・井植歳男、三島徳七、安倍喜平、三木善八、鹿島秀麿、大内兵衛、賀集新九郎、里深利八、高田屋嘉兵衛。
- ・これからの人物に求めるものは、歴史資源を生かせる人材、観光に役立つ人材。
- ・公共交通を至便にし、リゾートと癒やしのアイランドとして、又、京阪神のベッドタウンとして発展させたい。
- ・歴史の宝庫として従来の物見遊山ではない観光立島としていきたい。
- ・人物史、人物の活動史を内外に啓蒙できる場所が必要だ。
- ・農業分野でAI化、省力化及びドローン技術を役立てて欲しい。
- ・歴史資源を活用して欲しい。
- ・農業と漁業の魅力をアップして欲しい。その分野で実績のある人物の育成が必要である。
- ・全ての分野で知性、理性、感性を持った突っ張った人材の発掘が必要。
- ・専門性の能力、理工系の知識の発掘が必要である。
- ・安倍喜平のようなリーダーシップをとれる人材発掘が必要である。
- ・経済学者の大内兵衛のような経済の視点も必要になってくる。経済学者を招いて講演会を開いてはどうか。
- ・生活者の目線で一步先を見据えられる技術者又は思想家が必要である。
- ・淡路の産業を発展させる。近代技術の応用化を助力して欲しい。
- ・文明開化、UIJターン、安倍喜平の推進者など行動力のある人材が必要である。
- ・淡路の海苔や海産物などの海の植物の産業化を推進する。

### 【Cグループ】

- ・日本のはじまりは淡路島という意見が出された。淡路島を愛してくれる子どもたちにこれからも色々勉強していただく意味合いもある。淡路島にはすごいものがたくさんある。五斗長垣内遺跡、木戸原古墳、雨流遺跡などが日本のはじまりの島には必要である。来年4月には松帆銅鐸が淡路に帰ってくる。これらの遺産を子どもたちに分かってもらいたい。
- ・次期天皇に丸山の鯛が献上されるかもしれない。
- ・よみがえりの島と言う意見も出た。イザナギがイザナミを迎えに行って、黄泉の国

に行って帰ってくる。禊をしてよみがえった形で3柱の神様を生んだところがよみがえりの意味するところである。

- ・淡路島をこれから担う子どもたちに淡路の歴史を映像で伝えることが出来れば、子どもたちが自身を持って“私は淡路島の出身です”と言ってもらえる。

#### 【Eグループ】

- ・高齢で活躍中の人物・・・88歳の正井美恵子さん。6反の農家で畑を自分で耕して、収穫した野菜は全て地域の方へ奉仕されている。また、昔からテントやトラックのシートを作っている。淡路島で作ることができるのはこの方だけである。後継者が必要である。淡路健康長寿の島づくりに最適の人物だと思う。
- ・若手で活躍中の人物・・・大相撲の照強。169センチで体重112キロ、平成7年生まれ。淡路の復興のためには、子どもたちも、親たちも、私たちも横綱を目指そうという気持ちを持つことが大切である。
- ・野球では、阪神タイガースの近本光司選手、西武ライオンズの増田達至選手のほか、多くのプロ野球選手を輩出している。
- ・過去に活躍した人物では、明治時代に活躍した柴田宇三郎の名前が出た。江戸時代から続いた柴田家には跡継ぎがいなかったので宇三郎を養子に迎えた。宇三郎は全財産を投じて七福神巡りの土台を作った。

#### 【Fグループ】

- ・過去の人物・・・原健三郎、樋口季一郎、賀集珉平、三木酒造の三木氏。
- ・現在の人物・・・IT起業社長の丸山侑佑、陶芸家の前田幸一、堀井雄二。
- ・田村講師の著書にも書かれている樋口季一郎さんは1888年南あわじ市生まれ。ドイツから迫害されたユダヤ人が満州に流れてきた時にビザを発行したのがハルビン特務機関長の樋口季一郎だった。その当時、日独伊で三国同盟が結ばれていたが、人道的におかしいと思いビザを発行した。東京裁判で裁かれるはずだったが、満州国でビザの発行を受けたユダヤ人で、後にインベーダーゲームを開発して大金持ちになった人物がマッカーサーに口利きしてくれたおかげで助けられた。このことを後世に伝承して生きるヒントにしたい。
- ・原健三郎さんは命をかけて橋を架けた人。
- ・丸山侑佑さんはIT企業を起こし、東京の仕事を地方に売って地方創生の分野でがんばっている。

#### 【Gグループ】

- ・人物・・・高田屋嘉兵衛、岩田康郎、三島徳七、原健三郎、阿久悠、上沼恵美子、清川あさみ、湊かなえ。
- ・淡路島でふるさとのために頑張っていた岩田康郎、三島徳七先生のように世界に誇る大発明をした一方で、ふるさとのことも忘れずに地元で奨学金を寄付して後進の育成に努められた。
- ・淡路島には課題が多い。我々が直面している課題には、少子高齢化、人口減少、過疎、働く場所が無いなど色々な事がある。こういった課題を解決するために、この

ような人々の実績をもう一度学び直し、さらに現役で活躍している皆さんに我々が訴えることによって何か新しい淡路を創っていきたい。

- ・現在の人物の中で清川あさみさん、上沼恵美子さん、湊かなえさんにお力添えをいただき何かできることがないか考えた。高齢化が問題になっているので、皆で知恵を寄せ集めて市民学習の場を作りたい。平和な淡路島、暮らしやすい淡路島をつくるために、徘徊できるようにまち中にカフェを作る。自動運転のバスが細かい地域まで回る。清川あさみさんはデザイナーなのでバスのデザインをしてもらおう。市民学習では刺繍を教えてもらおう。上沼恵美子さんにはテレビで淡路島はいいところだと宣伝してもらおう。湊かなえさんにはミステリー小説を書いていただく。堀井雄二さんにはふるさと奨学金を出していただいて人材育成できればいい島になる。

## (5) 講評

### ①田村昭治講師

講演の内容がグループワークに十分役立たなかったかもしれない。皆さんが求めておられるのは、現在活躍されている方のこと、また、その方と向き合って何かしてはどうかという発言が中心だった。

ただ、過去の方々から何を学んだらいいかということは、過去のこんな環境の中でこのように戦ったということ、例えば、明治時代の人物に多かったのは、何か事業をするにしても自分の金を全部出している。淡路鉄道の賀集新九郎にしても、明治40年代に2回鉄道を作る計画を立てて資金を集めたが実現せず、3回目の明治40年の末に計画したものが流れかけ、大正時代に入って全国の淡路出身の資産家たちが資金を出して実現に至った。当時は声も出すが金も出すリーダーが多かった。

現在活躍している人物で出てこなかったが、淡路出身の漫画家も話題にして欲しかった。現在活躍している人物について皆さんと話し合う機会があれば喜んで参加したい。

### ②投石文子専門委員

全部のグループワークを見せていただいた。皆さん熱心で、淡路島をまだまだ活性化させるというパワーを感じた。今日は久しぶりに田村先生にお目にかかって、最初に『淡路学読本』を作ったときのことを思い出した。何年か経って夢フォーラムに井戸知事が来られた時に、『淡路学読本』自体は良いが内容が古いと言われ改訂した。改訂にあたって田村先生に資料を沢山ご提供いただいた。今日は、その中で原本をいくつか持って来ていただ中に興味深いものがいくつかあった。淡路島が最初に新聞を作ったということは、淡路島は文化度が非常に高いことだ。淡路島は日本を代表するようなすごい人材を輩出している。世界に羽ばたいた高田屋嘉兵衛、三島博士を知る機会を持つことは非常に大事だ。先日、人物について1時間講演したが、1時間で淡路島の人物を語り尽くすことは絶対に出来ない。いくつかのグループから提案があったが、知ること、知る機会をつくるのが大事だと思った。以前は、淡路学講座を淡路島の内外で実施していたが、再び淡路学講座を開いて淡路のことをもっと知ることが大事である。

淡路島は、守るべきものが守られていない。去年、淡路島の高校生にアンケートを実施した。淡路島の高校生は自分の地域のことがとても好きだ。一昨年に八重山諸島の高校生にもアンケートを実施した。比較したところ、淡路島の高校生も八重山諸島の高校生も自分の住む島が好きだという結果であった。八重山諸島の高校生は90パーセント近く、淡路島の高校生83パーセントだった。ただし決定的に違ったのは、自分たちの島の色んなものを継承していくという意識が非常に低かった。学会でも発表したけど、教育がちゃんとなっていないから子どもたちが育ってないと言われた。特に伝統芸能や文化を継承する意識は淡路島の子どもたちでは3割弱で、八重山諸島の子どもたちは100パーセントに近かった。

いくつかのグループで、若い人に焦点を当てて丸山侑佑という方のお名前が出て、すごい人がいることを知った。淡路島でも働ける場を作っていく機会を研究していかなければいけないと思った。今、ソサエティ5.0と言われているけど、平成の時代が終わって新しい時代がやってくる。今までのソサエティ4.0が終わっていく中でソサエティ5.0に向けて淡路島はある意味で最先端を走っていかなければいけないと思う。今後も、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思う。

### ③藤原道郎専門委員

淡路島に色々な偉人がいることを実感したところだ。明治の大きく変わった時代を背景にして偉人が出てきた。本日ご出席の多くの方々が昭和世代だと思うけど、昭和からすると大正、明治が2代前で、この5月には昭和は2代前になる。丁度、IT化であるとか色々な技術的なものが大きく変わり、時代が動いている中で、昭和世代は、明治と同じかもしれない。今日お話があった中で、今活躍されている方で時代をつくっている方もいるので、これから面白くなると思っている。その中で淡路島というのは、便利になっても人が地に足を着けて暮らしていくことは変わらないと思う。ドローンに人を乗せて飛んでいくことがあっても、行き着くところは地べたに降りるだろう。米や野菜も食べていこう。そういったところで、淡路島の今の暮らしがベースになると思っている。そういったところが、今日のお話から、過去のことも見ながら将来的なことがまた生まれてくる気がする。島であるので、海を隔てて他の陸とつながっていることも変わらない。手段として橋が出来て便利になったりしているけど、これからも島の特徴を生かしていけると思う。島の利点を出していくことで、ほかでは無いもの、島だからわざわざやって来ても面白いと思うことがある。自然環境の里山、棚田が見直されてきているので、これらが残っていること自体で淡路島に来ていただける。グリーンインフラという言葉が出てきているけど、自然環境を生かしたまちづくりについて、多機能性があることが持続可能で、例えば、災害が発生しても復元しやすいところを生かしながらやるのが淡路島の特徴を生かした暮らしになる。少子高齢化ということは、知恵が詰まっているということだと思う。高齢者の方々の知恵をもっと生かしていける時代になってきていると思う。皆さんのお話から、マイナスではなくプラスにしていく知恵が面白いと思った。

#### ④原テツアキ県議会議員

皆さんの発表はすばらしかったと思う。同時に、14年前に淡路に帰ってくる時のことを思い出した。淡路出身であることに誇りを持てるような島にすべきだと言った市民の方がいらっしやった。その言葉が私が淡路に戻ってきた原点だった。今日、同じことを発表されていたので、今日ここに来て良かったと思う。それから、講演のテーマが明治の淡路を拓いた人で、こういう時代の人の話をする時には、気をつけなければいけないことがあると思う。それは何かというと、こういった人たちは名を残すために活動したのではない。淡路に残った人、島を出た人、町内会活動をしている人も基本は自分たちが住んでいる地域、淡路島、日本を良くしようとした結果として名前が残っている。こういうことを子どもたちに教えないといけない。最近の子どもたちはすぐ有名になりたいと言って、日々のこつこつとすることをややもすれば軽く見がちである。そうではなく、日々のことをこつこつと一生懸命やることを子どもたちに教える必要がある。

それから、今、世界は大きく変わっている。過去の人を学ぶのも大事だが、その人たちがどういうことを考えて行動したのか、そのことを一つ一つ見ていけば自ずと今の時代でも参考になると思った。

#### ⑤浜田知昭県議会議員

明治、大正、昭和という時代の淡路島の人の特徴は、進取の気性に富んでいたということと研究熱心であった。そして、色んなかたちで成功を収めた人がいる。決してスタートの時から準備万端であったことは殆ど無かったと思う。一歩進めたが色々なかたちで失敗を重ねていた人もいるだろうし、中には最初からずっと順風満帆だった人もいると思う。少しの成功、少しの失敗に一喜一憂することではなく、もう少し長いスパンで色々な物事を見る必要があると思っている。高田屋嘉兵衛は、「国が変わっても人間皆同じだ、話せば分かる、お互いに人間は信頼し合える」と言ったことを身をもってロシアとの外交交渉の中で行った人と言われている。特に、今日のグループ発表の中でも、淡路島で育った心がこれだと言われた方がいらっしやったが、淡路島で育った心は広い心だ。短いスパンで一喜一憂する、そういう心では無いということを外に向かって自信を持って言える、そういった淡路島になればいいと思った。

#### ⑥金澤和夫副知事

今日のテーマは淡路島の人物から描く淡路の将来像だが、考えてみると、こうやって集まっているビジョン委員の皆さんが今の淡路島の人物だ。皆さんが熱い議論を戦わせて、淡路の未来をどうしようとお互いにやりとりをするということが、今の淡路島の人物がこれからの淡路島の未来像をお互いに語り合って創り上げている途中であるという気がする。そういう意味では、歴史に名を残すか残さないかは別としても、常にその時代毎の地域を創っていく誰かがいて、そういう人たちが地域のことを一生懸命想う気持ちで未来を創り上げていく。このプロセス、まさにビジョン委員の皆さんには

そういうことをお願いしている。今日のこういう場は、そういうお願いに応えていただいている場を加味して心を熱くしている。

それから、今日の議論のテーマ、人物から描くというのは結構難しいテーマだったと思う。「人は死んだだけでは死なないんだ、誰かの心の中に覚えられている限りはその人の命は続く」ということを良く聞くことがある。忘れられた時に初めてその人の命が永遠に失われる。忘れないということは本当に大切なことだ。阪神大震災でも、先ず、忘れないということから始めている。この忘れないことの大切さというのは、過去の地域の歴史をつくってきた人やプロセスについても忘れない大切さにつながっている。昔、山形県の遊佐町役場に勤めた時に、郷土の偉人が何人かいた。防風林を一生植え続けた人、飢饉の時に庄内藩の蔵を勝手に開けてお米を配って皆を助けた人などがいた。そういう偉人を祀るお祭りを毎年開いて、そこに小学生1クラスを呼んできて参加させる。6校あったので全員呼んでくるわけにはいかないが、交代に参加させることを毎年続けている。まちの小学生は、お祭りで郷土の偉人についての話を必ず聞いている。忘れないために伝えていく努力をしているということ自体がすごいと思った。

皆さんの発表の中にもあった今まさに活躍している人、これから有名になってくるかも知れない人、そういう人に着目する観点というのはすごいと思った。ちょっと残念だったのは、湊かなえさんにしても、丸山侑佑さんにしても、淡路に何かしてくれたりいなという話はあったが、淡路の人はそういう人たちをどうやって応援するんだという話が無かった。これからもっと頑張ってもらうために、淡路に住んでいる人たちは、彼らをこういう風に応援しますというメッセージが欲しいと思った。それがあつて、これからも淡路から若手の人たちがどんどん巣立っていく。島を出て行くのは残念だが、島の皆から応援されている気持ちがあれば、島に対する愛着を持ったうえで世界で活躍してくれる。いずれにしても、少子高齢化、人口減少、良く言われるが、これから地域をつくっていく上で一人一人の役割が重要になっていくだろうと思う。その時に、淡路で生まれ育つてふるさととする人もそうであるし、よそから移り住んできている方もいるが、完全に仲間だと思って、淡路にいる皆さんが心を一つに合わせて淡路島の未来を創っていくこの作業というのは、これからの地域の未来を左右することだと思う。ビジョン委員の皆さんにはそのリーダーとして、淡路の人材のキーマンとして活躍していただけたら嬉しいと思う。これからも今日のような熱い議論を皆さんで戦わせていただいて、そして地域にフィードバックしていただくことをお願いしたいと思う。

## (6) 閉会あいさつ (木戸副委員長)